２０２２年３月期
決算説明資料

2022年5月25日

東証プライム:　6333

株式会社 帝国電機製作所

目次

1. ２０２２年３月期決算
2. ２０２３年３月期業績見通し
3. 資本政策
4. 中期経営計画の進捗状況
5. 環境経営への取組み
6. 参考資料

世界中の様々な場所で活躍している
テイコクキャンドモータポンプ

私たちはキャンドモータポンプの
リーディングカンパニーです

1．２０２２年３月期決算

株式会社 帝国電機製作所

２０２２年３月期決算概要

株式会社 帝国電機製作所

（百万円）	2021年3月期	構成比（%）	**2022年3月期**	構成比（%）	増減	増減率（%）
売上高	19,910	100.0	**22,244**	100.0	+2,334	+11.7
売上原価	12,422	62.4	**13,192**	59.3	+770	+6.2
売上総利益	7,487	37.6	**9,052**	40.7	+1,564	+20.9
販売費及び一般管理費	5,224 (5,616)	26.2 (28.2)	**6,557**	29.5	+1,332 (+941)	+25.5 (+16.8)
営業利益	2,262 (1,871)	11.4 (9.4)	**2,494**	11.2	+231 (+623)	+10.2 (+33.3)
経常利益	2,513 (2,121)	12.6 (10.7)	**2,953**	13.3	+440 (+831)	+17.5 (+39.2)
親会社株主に帰属する当期純利益	2,324 (1,463)	11.7 (7.3)	**1,987**	8.9	▲336 (+524)	▲14.5 (+35.8)

※2021年3月期において、中国の修理子会社の清算に係る未払税金取崩の影響(販売費及び一般管理費▲391百万円、法人税等▲469百万円)を除いた額を括弧書きで記載しております。

決算（損益計算書）のポイント

株式会社 帝国電機製作所

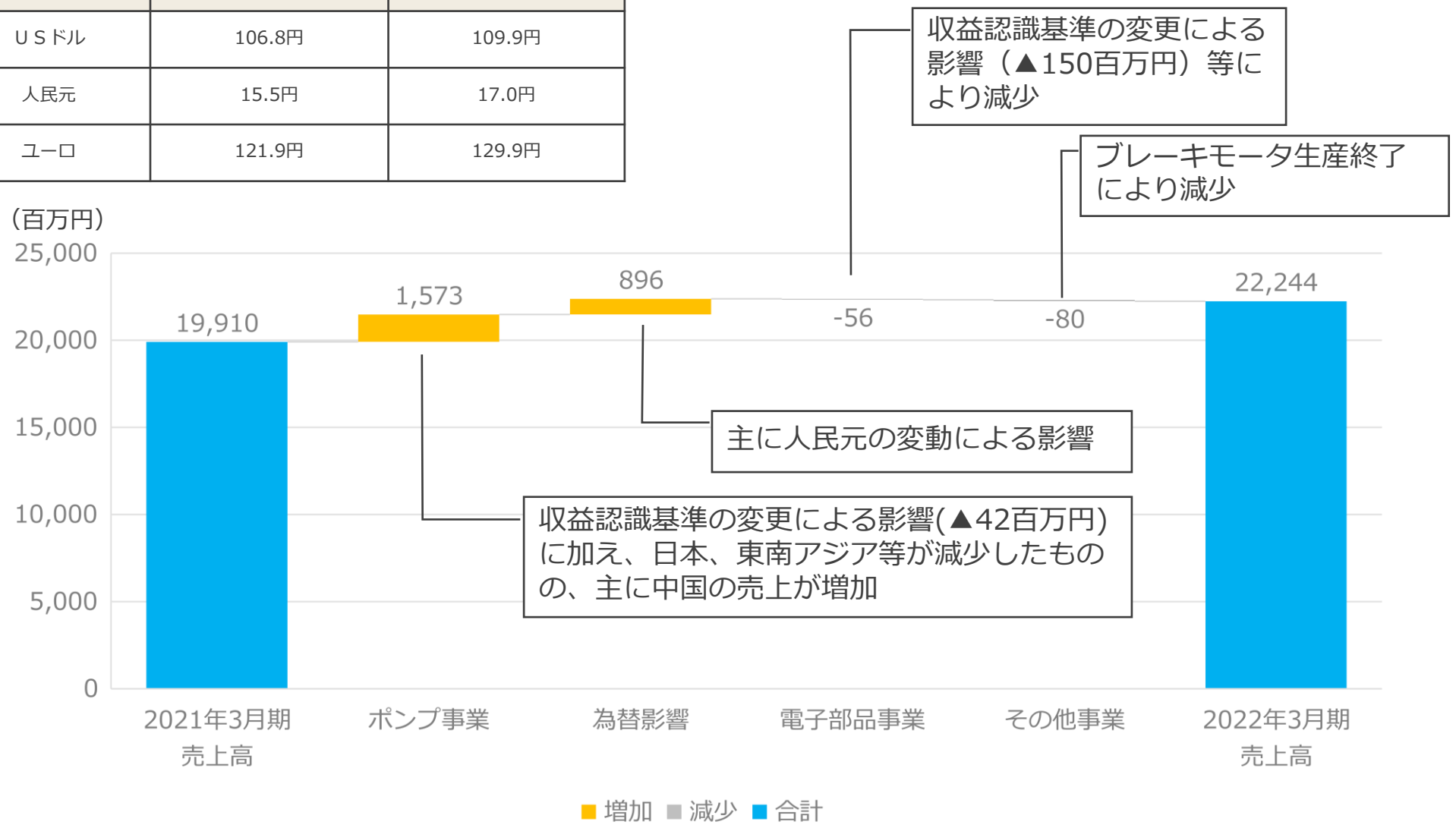
増収減益

売上高	・ポンプ事業は日本、東南アジア等の回復が遅れているものの、主に中国のケミカル向けが好調であったことや為替影響等により増収。 ・収益認識基準の見直しによる売上への影響額▲192百万円（内、電子部品事業への影響▲150百万円）
営業利益	・ポンプ事業は、前期における中国の修理子会社2社清算による未払税金（源泉税、増値税分）取崩しによる391百万円のプラス要因の反動減があったものの、中国、インドの売上増加や為替影響、電子部品事業の黒字化等により増益。
親会社株主に帰属する当期純利益	・営業利益の増加に加え、為替差益等により経常利益が前期比440百万円増加したものの、前期における中国の修理子会社2社清算による未払税金（企業所得税分）取崩しによるプラス要因469百万円の反動減等もあり、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比減少。

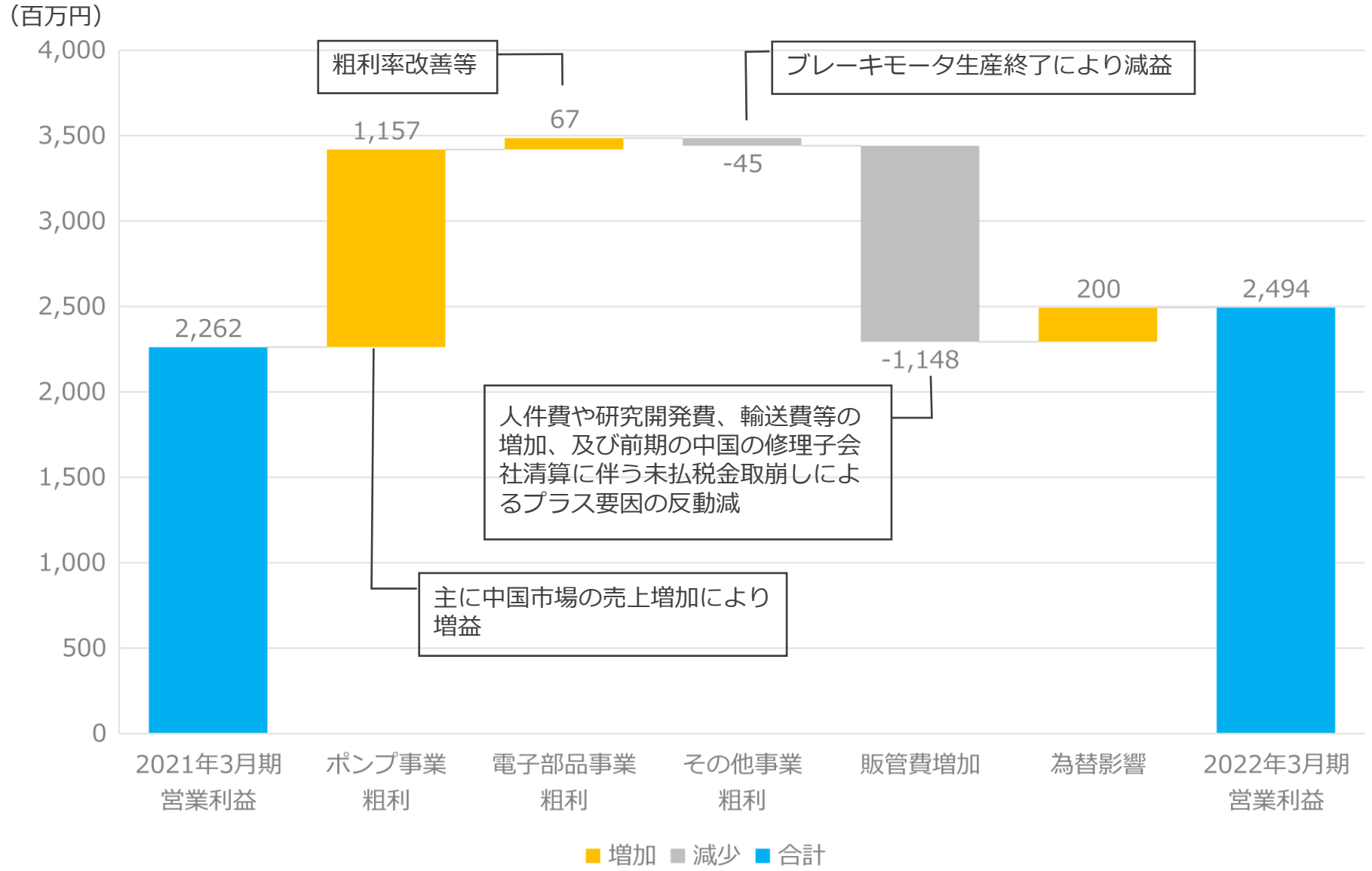
売上高増減分析

株式会社 帝国電機製作所

期中平均レート推移	2021年3月期	2022年3月期
ＵＳドル	106.8円	109.9円
人民元	15.5円	17.0円
ユーロ	121.9円	129.9円



営業利益増減分析


（百万円）
4,000
3,500
3,000
2,500
2,000
1,500
1,000
500
0
粗利率改善等
ブレーキモータ生産終了により減益
1,157
67
-45
2,262
-1,148
200
2,494
人件費や研究開発費、輸送費等の増加、及び前期の中国の修理子会社清算に伴う未払税金取崩しによるプラス要因の反動減
主に中国市場の売上増加により増益
2021年3月期 営業利益
ポンプ事業 粗利
電子部品事業 粗利
その他事業 粗利
販管費増加
為替影響
2022年3月期 営業利益
増加
減少
合計

種類別セグメント（売上高・営業利益）

株式会社 帝国電機製作所

	(百万円)	2021年3月期	**2022年3月期**	増減	増減率
ポンプ事業	売上高	17,895	**20,365**	+2,470	+13.8%
	営業利益 (営業利益率)	2,237 (12.5%)	**2,443** **(12.0%)**	+206	+9.2% (▲0.5%)
電子部品事業	売上高	1,584	**1,528**	▲56	▲3.5%
	営業利益 (営業利益率)	▲41 (－%)	**19** **(1.3%)**	+60	－ (—)
その他	売上高	430	**350**	▲80	▲18.6%
	営業利益 (営業利益率)	67 (15.6%)	**32** **(9.2%)**	▲34	▲52.2% (▲6.4%)
合計	売上高	19,910	**22,244**	+2,334	+11.7%
	営業利益 (営業利益率)	2,262 (11.4%)	**2,494** **(11.2%)**	+231	+10.2% (▲0.2%)

ポンプ事業 所在地別売上高

株式会社 帝国電機製作所

- 日　本‥2022年3月期の受注は回復傾向であったが、2021年3月期後半の受注減速（期初受注残減少）の影響を受け減収
- 欧　米‥米国は2021年3月期堅調であった原子力向けの反動減あるが、冷凍機向けやメンテナンスが増加したことにより増収
- アジア‥中国はケミカル向けを中心に好調に推移していることに加え、2021年3月期1Qのロックダウンによる反動増もあり増収

	(百万円)	2021年3月期	**2022年3月期**	増減	増減率
日本	売上高	6,956	**6,679**	▲277	▲4.0%
欧米	売上高	4,460	**4,901**	＋440	＋9.9%
アジア	売上高	6,477	**8,785**	＋2,307	＋35.6%
合計		17,895	**20,365**	＋2,470	＋13.8%

※販売元が基準（外部顧客に対する売上でセグメント間は除く）

ポンプ事業 製品種類別売上高

株式会社 帝国電機製作所

●主にケミカル機器用、メンテナンスが増加

(百万円)	2021年3月期	比 率 (%)	**2022年3月期**	比 率 (%)	増減	増減率 (%)
ケミカル機器用	9,712	54.3	**10,960**	53.8	+1,248	+12.9
冷凍機・空調機器用	1,800	10.1	**2,115**	10.4	+315	+17.5
電力用（車両用）	438	2.5	**492**	2.4	+54	+12.4
電力用（地上用）	563	3.1	**538**	2.6	▲24	▲4.4
定量注入機器	436	2.4	**457**	2.3	+21	+4.9
その他ポンプ	214	1.2	**240**	1.2	+25	+11.9
メンテナンス	4,729	26.4	**5,561**	27.3	+831	+17.6
合計	17,895	100.0	**20,365**	100.0	+2,470	+13.8

種類別受注高・受注残高

株式会社 帝国電機製作所

●ポンプ受注は中国、米国が好調に推移し、他の地域も概ね回復傾向にあった

(百万円)	2021年3月期		**2022年3月期**		増減	
	受注高	受注残高	**受注高**	**受注残高**	受注高	受注残高
ポンプ事業	17,295	7,701	**23,430**	**10,766**	+6,135	+3,064
電子部品事業	1,637	164	**1,541**	**178**	▲95	+13
その他	486	144	**322**	**116**	▲163	▲28
合計	19,418	8,010	**25,294**	**11,061**	+5,876	+3,050

貸借対照表のポイント

株式会社 帝国電機製作所

（百万円）

資産の部	2022年3月期	前期末増減
流動資産	**28,099**	＋3,214
現預金	**14,441**	＋1,865
受取手形、売掛金及び契約資産（※1）	**6,604**	－
電子記録債権	**1,278**	+423
製品・仕掛品 原材料・貯蔵品	**5,210**	＋903
固定資産	**10,901**	+154
有形固定資産	**8,689**	＋322
無形固定資産	**181**	▲197
投資その他の資産	**2,029**	＋30
資産合計	**39,001**	＋3,369

負債の部	2022年3月期	前期末増減
流動負債	**7,368**	+1,651
支払手形・ 買掛金	**2,110**	＋287
電子記録債務	**635**	+589
短期借入金	**340**	＋20
未払法人税等	**497**	＋199
その他	**3,784**	+554
固定負債	**1,341**	＋261
純資産	**30,291**	＋1,456
（内自己株式）（※2）	**(▲1,864)**	(▲864)
負債・純資産合計	**39,001**	＋3,369

※1 当連結会計年度の期首より収益認識会計基準等を適用しており、前連結会計年度については新たな表示方法による組替えを行っていないため前期末増減金額を記載しておりません。

※2 2021年３月８日開催の取締役会決議に基づき、自己株式800百万円の取得を行いました（2021年10月20日終了）。また、2022年2月9日開催の取締役会決議に基づき、当期中に自己株式137百万円の取得を行いました（継続中）。この結果、当期において自己株式が864百万円増加し、当期末において自己株式が1,864百万円となっております。

キャッシュフロー分析

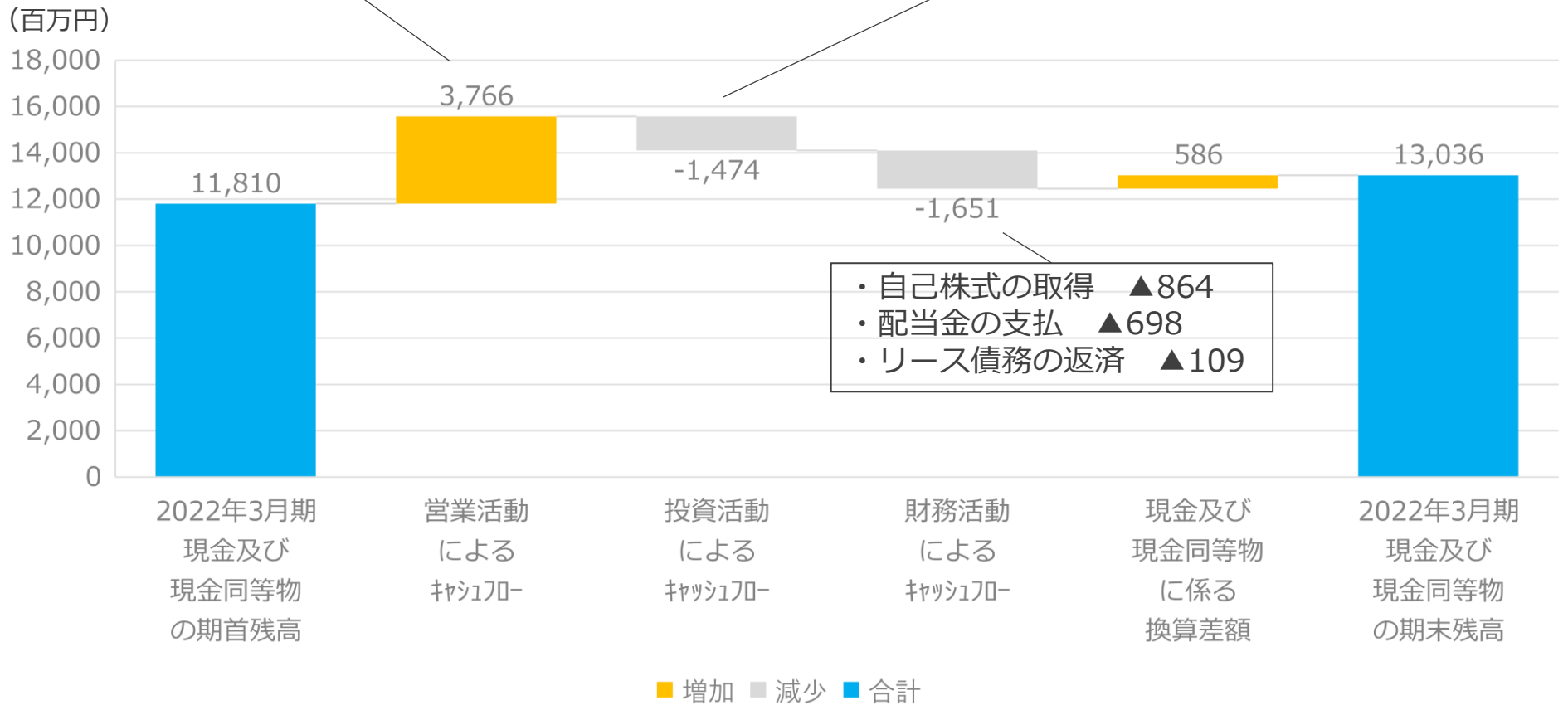
株式会社 帝国電機製作所

●現金・同等物期末残高は1,226百万円増加

・税金等調整前当期純利益　+2,932
・減価償却費　+922
・仕入債務の増加　+737
・棚卸資産の増加　▲632

・有形固定資産の取得　▲898
・定期預金の預入　▲573

・自己株式の取得　▲864
・配当金の支払　▲698
・リース債務の返済　▲109



2．２０２３年３月期業績見通し

株式会社 帝国電機製作所

業績見通しの前提条件

株式会社 帝国電機製作所

セグメント別		
ポンプ事業	全体	・前期の堅調な受注により受注残が高水準であり、為替もプラスに影響することから増収増益の見込み ・原材料価格高騰やウクライナ情勢等、景気の先行き不透明感から設備投資意欲が減退し、受注は減少の見込み
	日本	・前期に新型コロナウイルス感染拡大の影響で止まっていた案件が動き出したことにより受注が増加したことから、期初受注残が高水準であり増収の見込みだが、原材料価格の高騰等により利益は横ばいの見込み
	欧米	・前期に主に米国において、経済の正常化に伴い受注が回復傾向にあったことから、期初受注残が高水準であり、増収増益の見込み
	アジア	・前期に主に中国において、ケミカル向けの受注が好調に推移したことから期初受注残が高水準であり、増収増益の見込み
電子部品事業		・自動車減産の影響や部品不足による生産停滞が引き続き懸念されるが、足許の業績は回復傾向にあることから増収増益を見込む

※ インドを除く海外現地法人の決算期は12月（インドは3月）

計画為替レート（期中平均）	1US＄=120.0円、1€=130.0円、1元=18.0円、1KRW=0.09円、1INR=1.5円 （前期実績レート：・　1US＄=109.9円、1€=129.9円、1元=17.0円、1KRW=0.1円、1INR=1.5円）

今期計画（業績見通し）

株式会社 帝国電機製作所

(百万円)	2022年3月期 (実績)	構成比 (%)	**2023年3月期 (計画)**	構成比 (%)	増減	前期比 (%)
売上高	22,244	100	**24,740**	100	+2,496	+11.2
売上原価	13,192	59.3	**14,980**	60.5	+1,788	+13.6
売上総利益	9,052	40.7	**9,760**	39.5	+708	+7.8
販売費及び一般管理費	6,557	29.5	**6,820**	27.6	+263	+4.0
営業利益	2,494	11.2	**2,940**	11.9	+446	+17.9
経常利益	2,953	13.3	**3,130**	12.7	+177	+6.0
親会社株主に帰属する当期純利益	1,987	8.9	**2,140**	8.6	+153	+7.7

種類別セグメント見通し（売上高・営業利益）

株式会社 帝国電機製作所

●前期3Qでブレーキモータが生産終了となったため「その他」の売上・利益は減少の見込み

	(百万円)	2022年3月期 (実績)	**2023年3月期 (予想)**	増減	増減率
ポンプ事業	売上高	20,365	**22,810**	+2,445	+12.0%
	営業利益 (営業利益率)	2,443 (12.0%)	**2,860 (12.5%)**	+417	+17.1% (+0.5%)
電子部品事業	売上高	1,528	**1,720**	+192	+12.6%
	営業利益 (営業利益率)	19 (1.3%)	**70 (4.1%)**	+51	+268.4% (+2.8)
その他	売上高	350	**210**	▲140	▲40.0%
	営業利益 (営業利益率)	32 (9.2%)	**10 (4.8%)**	▲22	▲68.8% (▲4.4%)
合計	売上高	22,244	**24,740**	+2,496	+11.2%
	営業利益 (営業利益率)	2,494 (11.2%)	**2,940 (11.9%)**	+446	+17.9% (+0.7%)

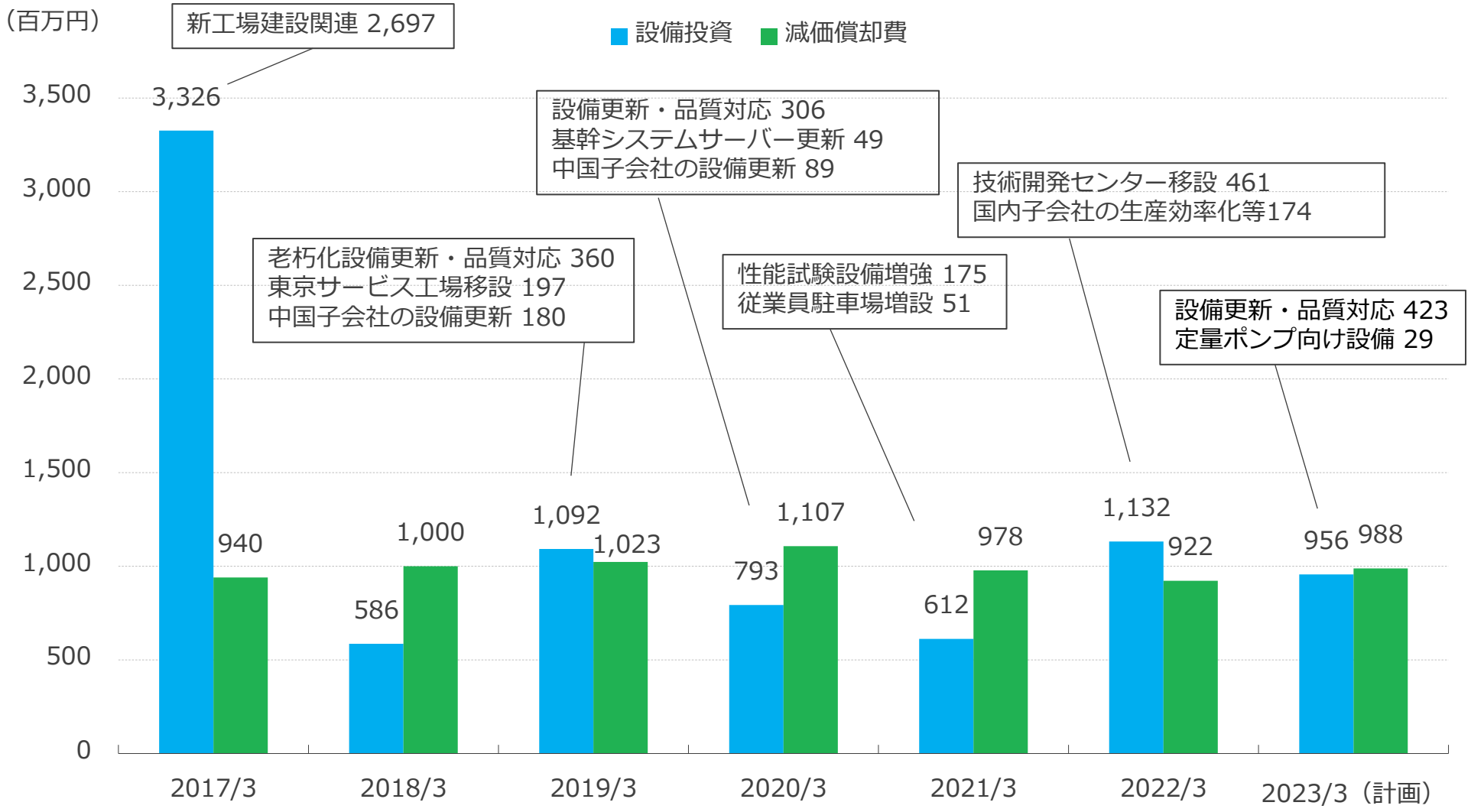
ポンプ事業 所在地別売上高見通し

株式会社 帝国電機製作所

	(百万円)	2022年3月期（実績）	**2023年3月期（予想）**	増減	増減率
日本	売上高	6,679	**7,450**	+771	+11.5%
欧米	売上高	4,901	**5,980**	+1,079	+22.0%
アジア	売上高	8,785	**9,380**	+595	+6.8%
合計	売上高	20,365	**22,810**	+2,445	+12.0%

※販売元が基準（外部顧客に対する売上でセグメント間は除く）

設備投資・減価償却費計画



3．資本政策

株式会社 帝国電機製作所

資本政策

株式会社 帝国電機製作所

資金配分

自己資金である現預金と営業キャッシュフローを資金原資として、総還元性向100%（うち配当性向50%）を目標とするとともに約50億円規模の成長投資を行う

資金原資	株主還元	設備投資
営業キャッシュフロー	配当 配当性向 50%	
	自己株式取得	
現預金 144億円	総還元性向　100%	設備更新投資 成長／大規模投資 約50億円

株主還元策

株式会社 帝国電機製作所

基本方針

資本効率の改善と収益力強化の姿勢を明確にするため、現在取組み中の中期経営計画期間（2022年3月期から2024年3月期）のうち、2023年3月期から2024年3月期までの2期について、株主還元を下記のとおり変更

総還元性向　総還元性向100%（うち配当性向50%）

実施期間　2023年３月期及び2024年３月期の２期の期間

※上記期間終了後に見直し予定

	2020年3月期	2021年3月期	**2022年3月期**	2023年3月期（予定）
年間配当金	36円	36円	**50円**	58円
配当性向(連結)	22.5%	30.5%	**48.4%**	50.7
総還元性向（連結）	26.3%（※1）	33.6%（※2）	**91.9%（※2,3）**	100.0

※1　2019年12月に総額117百万円の自己株式取得

※2　2021年3月9日から2021年10月20日に8億円（80万株）上限の自己株式取得を実施

※3　2022年2月9日に8億円（80万株）上限の自己株式取得を発表し、2022年3月末までに1億37百万円買付。今回の自己株式の取得が完了した後、すみやかに発行済株式総数の概ね５%を残して消却する予定

成長・大規模投資

株式会社 帝国電機製作所

成長・大規模投資概要

積極的な設備投資で収益力の強化を図るとともに、品質向上・納期短縮・充実したサービス体制で顧客満足度を向上し、リーディングカンパニーとして更なる競争優位を確立する

概要	金額
・海外拠点の生産能力の拡充 中国子会社の工場増設	約30億円
・メンテナンス体制の強化 米国、東南アジアでの修理拠点の増設・拡充	約5億円
・子会社業務見直しに伴う設備投資 ポンプ事業強化のための国内子会社業務見直し	約15億円

※金額については計画が具体化する中で変更になる可能性があります。

４．中期経営計画の進捗状況

（2022年3月期～2024年3月期）

株式会社 帝国電機製作所

中期経営計画の概要（※詳細は2021.6.24開示の決算説明資料をご参照ください）

株式会社 帝国電機製作所

中期ビジョン

- すべてのステークホルダーの満足度向上

中期経営計画目標

- 売上258.5億円、営業利益32億円、ROE8%
- ESGの積極的推進

※赤文字部分を今回修正

計数計画及び設備投資計画

株式会社 帝国電機製作所

1．計数計画

（百万円）

	2021年3月期 実績	2022年3月期 計画	2022年3月期 実績	2023年3月期 当初計画	2023年3月期 修正計画	2024年3月期 当初計画	2024年3月期 修正計画
受注	19,418	21,900	25,294	23,450	24,780	25,600	25,600
売上	19,910	20,900	22,244	22,190	24,740	24,500	25,850
営業利益	2,262	1,680	2,494	2,280	2,940	3,200	3,200
営業利益率（%）	11.4	8.0	11.2	10.3	11.9	13.1	12.4
ROE（%）	8.4	–	6.8	–	–	8.0	8.0

※ 2021年3月期は、大連修理子会社清算に伴う未払税金の取崩しによる戻入8.6億円を差引くとROE5.1%
※ 赤文字部分を今回修正

2．主な設備投資計画

（百万円）

	2022年3月期 計画	2022年3月期 実績	2023年3月期 計画	2024年3月期 計画
金額	1,469	1,132	956	2,900
内容	・技術開発センター移設 ・設備更新・増強等	・技術開発センター移設 461百万円 ・子会社生産ライン効率化 174百万円	・設備更新・増強等	・子会社業務見直しに伴う設備投資 ・中国工場増設関連 ・海外サービス拠点増設 ・設備更新・増強等

※ 赤文字部分を今回修正

ステークホルダーの満足度向上に向けた取組み

株式会社 帝国電機製作所

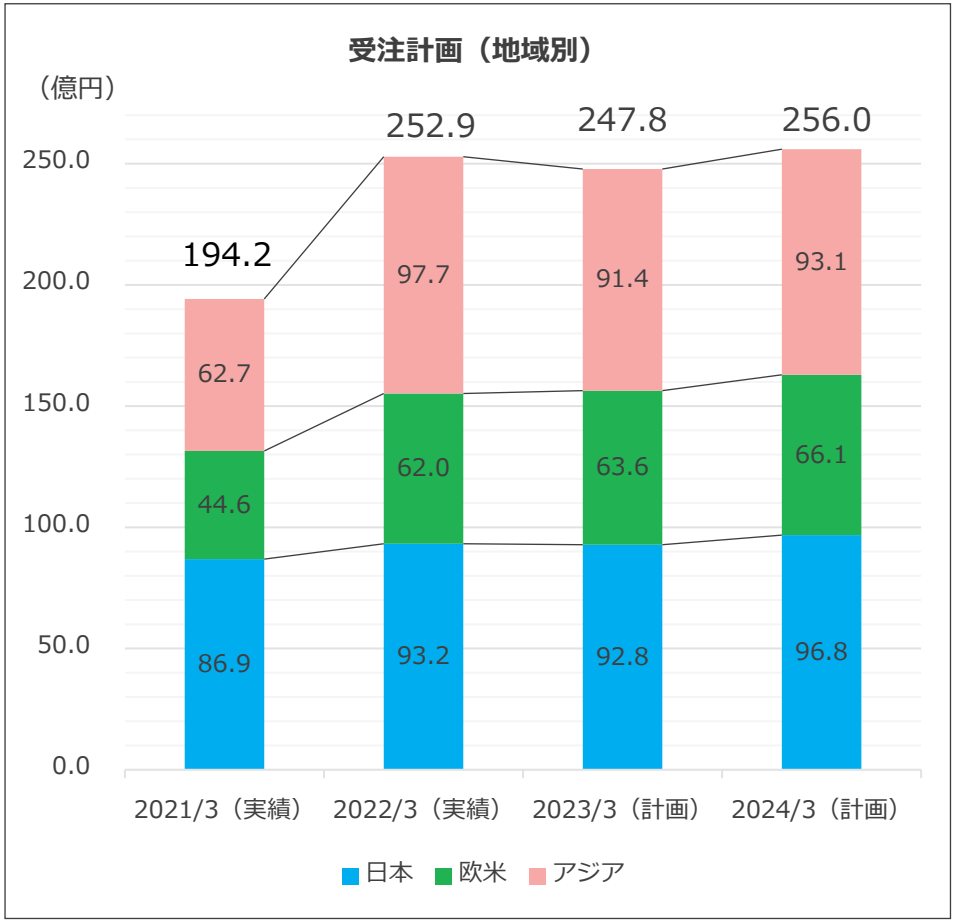
ステークホルダー	取組み内容	進捗状況
株主	資本効率改善	・2021年3月に自社株買い開示（上限8億円or80万株） →2021年10月完了（8億円） ・2022年2月に自社株買い開示（上限8億円or80万株） →買付継続中（2022年3月末：137百万円） ・増配（年間配当36円→50円）
	ガバナンス強化	・2021年12月に経営理念と行動指針を策定 ・コンプライアンス教育実施（毎月1回実施）
顧客	顧客満足度向上	・顧客管理システム導入とマーケティングへの活用 ・規格・認証への対応力強化（製品ラインナップ強化） →ISO2858準拠キャンドモータポンプ販売開始
	潜在ニーズの発掘	・ゼロカーボン市場深耕のためのマーケティング強化
	サービス事業強化	・注力製品である定量ポンプのメンテナンス人員を拡充
調達先	強固なサプライチェーン構築	・国内生産子会社のボトルネック解消支援
従業員	従業員満足度向上	・教育センター室を中心とした人材教育に注力 ・人事評価の見直し ・新型コロナワクチン接種休暇制度創設
	ダイバーシティ推進	・女性社員の意識向上に向けた座談会実施
地域社会	社会貢献活動	・会社周辺清掃活動を週1回実施
	環境問題への対応	・高効率型キャンドモータポンプ販売開始 ・新・技術開発センターに自家消費型太陽光発電設置 ・社有車をHV車に順次入替中 ・TCFDに沿った開示準備

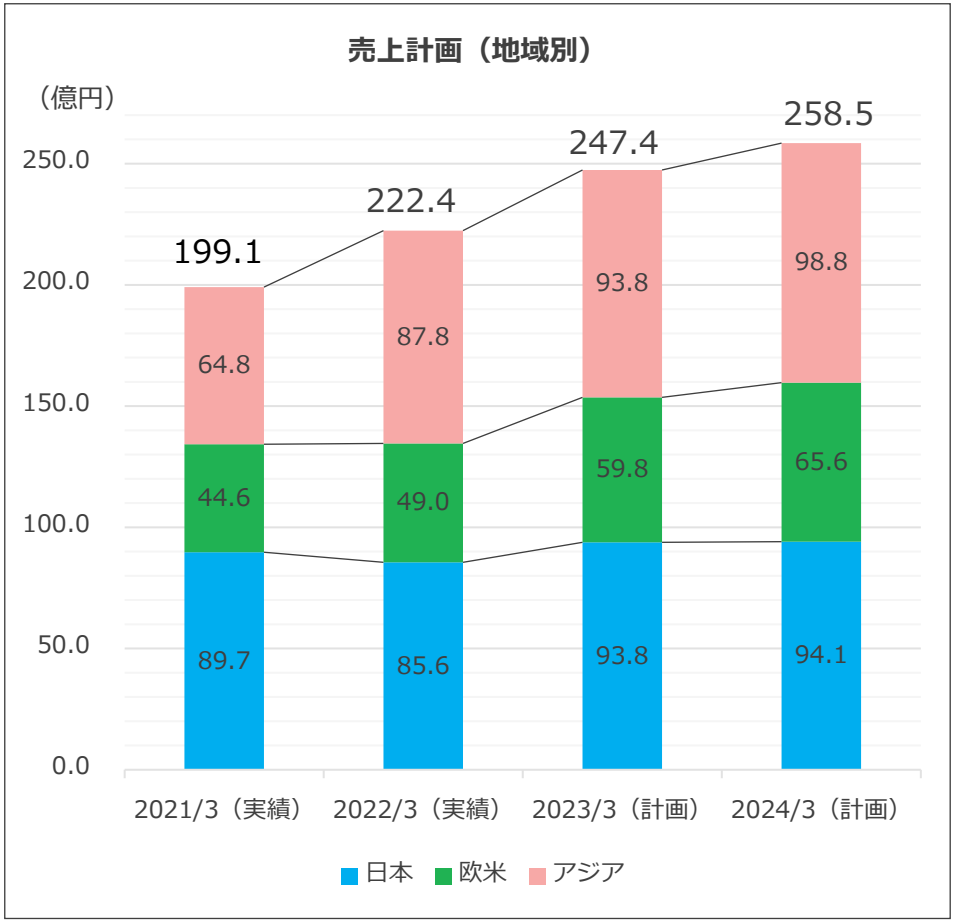
株式会社 帝国電機製作所

地域別取組み進捗状況

地域	主な取組み内容	進捗状況
日本	・One to One マーケティングによる顧客との関係深化 ・デジタル技術活用による生産性向上 ・サービス事業強化	・顧客情報の一元化とデータ分析 ・工程管理のデジタル化 ・定量ポンプのメンテナンス要員拡充
欧米	・シールポンプからのリプレース推進 ・ケミカル向けポンプの一部機種ノックダウン生産 ・定量ポンプの販売強化 ・マーケティング強化 ・サービス事業強化	・米国、欧州の規格・認証対応 ・米国における定量ポンプ市場調査
アジア	・マーケティング強化 ・中国子会社の生産ボトルネック解消 ・サービス事業強化	・中国における市場調査 ・中国子会社の生産ボトルネック解消に向けた人員派遣

受注・売上計画


受注計画（地域別）
（億円）
250.0
200.0
150.0
100.0
50.0
0.0
194.2
252.9
247.8
256.0
62.7
97.7
91.4
93.1
44.6
62.0
63.6
66.1
86.9
93.2
92.8
96.8
2021/3（実績）
2022/3（実績）
2023/3（計画）
2024/3（計画）
日本
欧米
アジア


売上計画（地域別）
（億円）
250.0
200.0
150.0
100.0
50.0
0.0
199.1
222.4
247.4
258.5
64.8
87.8
93.8
98.8
44.6
49.0
59.8
65.6
89.7
85.6
93.8
94.1
2021/3（実績）
2022/3（実績）
2023/3（計画）
2024/3（計画）
日本
欧米
アジア

5．環境経営への取組み

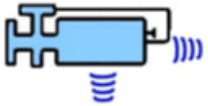
株式会社 帝国電機製作所

製品自体が環境貢献

主力製品であるキャンドモータポンプ

・完全無漏洩であることから、環境負荷が小さい

・運転音が静かであるため、騒音を低減できる



環境に優しい製品の製造・販売で
地球環境悪化防止に貢献

ESGの積極的推進（Zero-Carbonをビジネスチャンスへ）

株式会社 帝国電機製作所

脱炭素分野における2022年3月期受注実績

（百万円）

分野	金額
燃料関連 （航空機・自動車・船舶等の燃料として使用される水素・バイオディーゼル等）	448
発電関連 （太陽光、太陽熱、風力、アンモニア混焼火力等）	314
ケミカル関連 （ケミカルリサイクル、生分解性プラスチック等）	709
合計	1,471

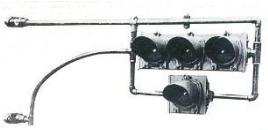
6．参考資料

株式会社 帝国電機製作所

当社概要と沿革

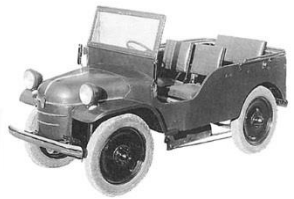
株式会社 帝国電機製作所

当社は完全無漏洩構造のキャンドモータポンプを主力事業として、
約半世紀にわたって事業を展開しています。
世界各地の石油化学プラント、ファインケミカル、医薬・食品業界、原子力発電所、
変電所等様々な分野で活躍し、数多くの実績と信頼を築いています。



1939年
帝国電機製作所
設立

1947年
テイコク製電気
自動車を開発



1958年
A型モータ
を試作

1960年
キャンドモータ
ポンプの開発に
成功

1991年
初の海外拠点
となる
TEIKOKU USA
INC. を設立

1994年
中国に大連帝国
キャンドモータ
ポンプ有限公司
を設立

2003年
TEIKOKU USA
INC.が米国クレ
イン社のケミポ
ンプ事業部を買
収

2006年
東京証券
取引所市
場第一部
に上場

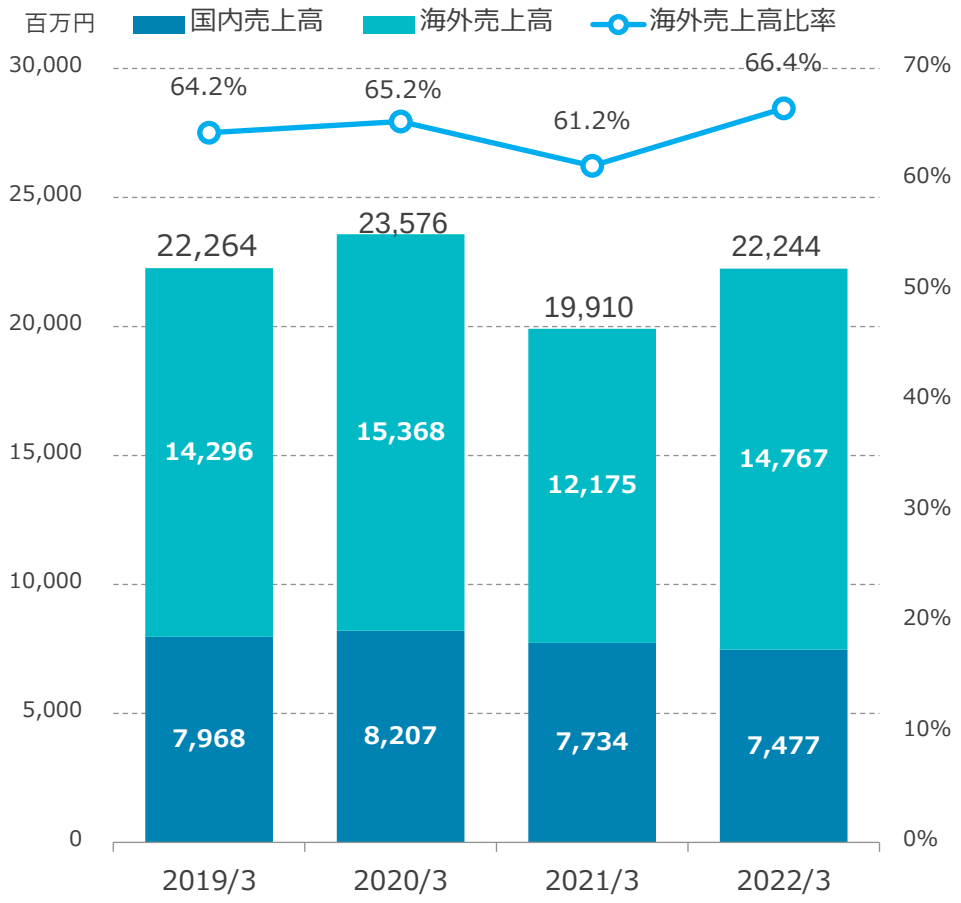
2017年
本社工場
リニューアル

2017年
インドのHYDRODYNE
(INDIA)PVT. LTD. を子会社化
(現・HYDRODYNE
TEIKOKU(INDIA)PVT.LTD.)

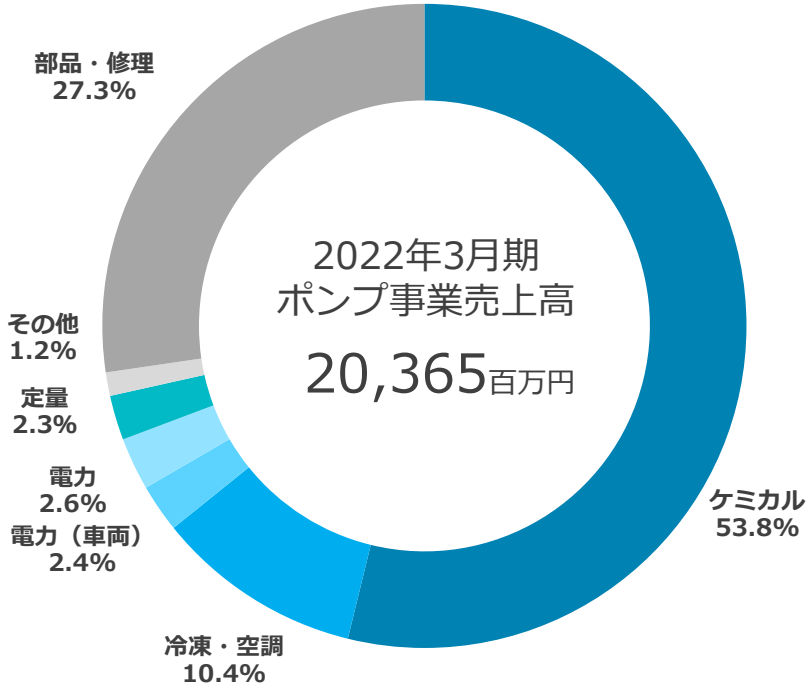
当社の売上構成

株式会社 帝国電機製作所

国内外売上高比率の推移



ポンプ用途別売上比率



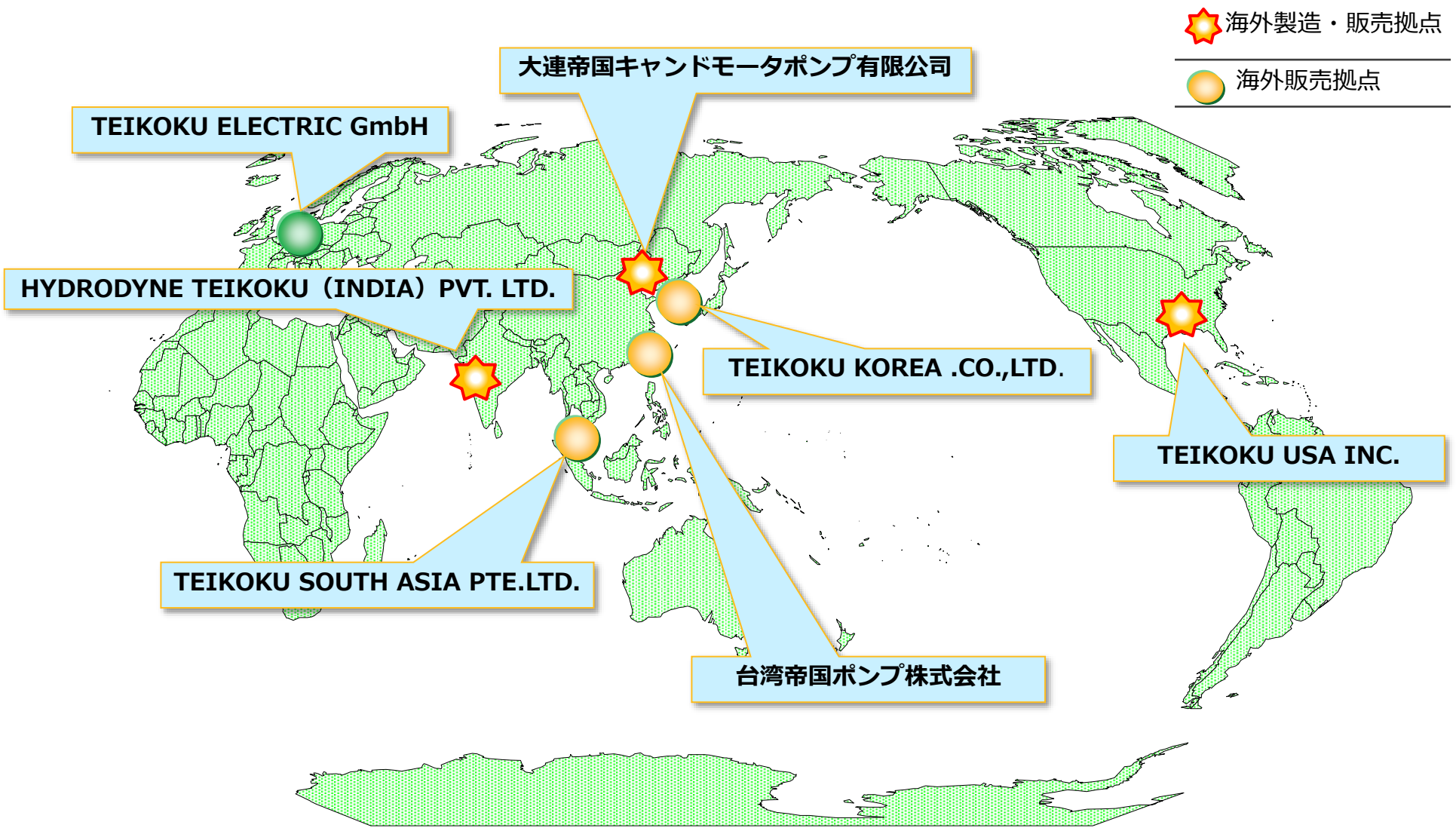
- 売上高の約91.6%は、
「キャンドモータポンプ」を主軸とする「ポンプ事業」

過去業績の推移

株式会社 帝国電機製作所

	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期
売上高（百万円）	20,789	22,264	23,576	19,910	22,244
営業利益（百万円）	2,300	2,025	3,750	2,262	2,494
営業利益率（%）	11.1	9.1	15.9	11.4	11.2
ROE（%）	6.1	4.1	12.2	8.4	6.8
ROA（%）	7.1	6.6	11.1	7.1	7.9
配当性向（%）	26.8	46.7	22.5	30.5	48.4
受注高（百万円）	21,723	24,893	22,234	19,418	25,294
受注残高（百万円）	7,273	9,843	8,501	8,010	11,061

当社の海外展開


海外製造・販売拠点
海外販売拠点
大連帝国キャンドモータポンプ有限公司
TEIKOKU ELECTRIC GmbH
HYDRODYNE TEIKOKU（INDIA）PVT. LTD.
TEIKOKU KOREA .CO.,LTD.
TEIKOKU USA INC.
TEIKOKU SOUTH ASIA PTE.LTD.
台湾帝国ポンプ株式会社

主力製品

株式会社 帝国電機製作所

キャンドモータポンプ	完全無漏洩という特徴を活かし、石油化学プラント等様々な分野で活躍しています。		**電動油ポンプ**	変圧器冷却用に使用されています。変電施設の他、すべてのJR新幹線に搭載されています。	
	国際規格API685に準拠したキャンドモータポンプ。高温・高圧に対する耐久性にも優れています。		**定量ポンプ**	一定量の液体を正確に移送可能なポンプ。用途範囲が広く、薬品業界等で活躍しています。	
	大型冷凍機・空調機の冷媒の移送においても、当社のキャンドモータポンプが採用されています。		**かくはん機**	各種槽内の液体を効率よく攪拌でき、石油化学業界のほか、食品業界等でも活躍しています。	

キャンドモータポンプの特徴

一般的なポンプとキャンドモータポンプの違い

一般的なポンプはポンプとモータを別々に製造し、それをカップリングして使用するため、回転軸を通したケーシングの隙間から、取り扱い液が外部へ漏れてしまいます。
しかし当社のキャンドモータポンプは、ポンプとモータを一体化し、取り扱い液が密閉される構造であるため、完全無漏洩であることが特徴です。

キャンドモータポンプの優れた特徴

1 完全無漏洩

取り扱い液が外部に漏れるおそれがないので、人体に有害な液、爆発や引火しやすい液、高価な液、腐食性のある液などの取り扱いに適しています。

2 外気との接触なし

外気を吸い込まないので、真空系での運転、外気に触れると変質する液などの取り扱いに適しています。

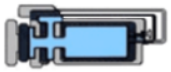
3 幅広い圧力・温度に対応

軸シールがないので、系の圧力が高い、高温液、低温液、高融点液などを取り扱うポンプの製作が容易です。

4 潤滑油いらず

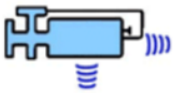
潤滑油を必要としないので、取り扱い液の汚染がなく、給油の手間が不要です。

5 小型軽量で省スペース



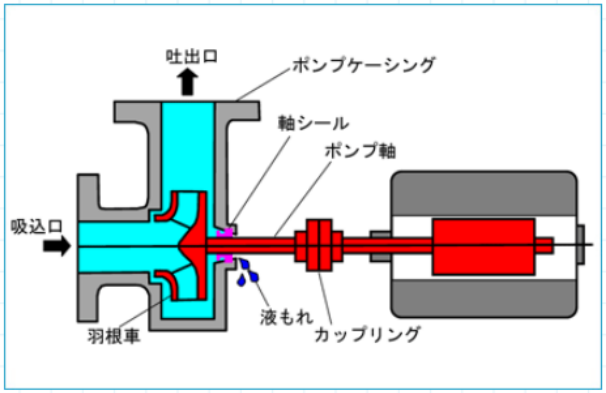
モータ軸がポンプ軸を兼ねているので、小型軽量で設置場所をとらない、分解点検が容易です。

6 静かな運転音



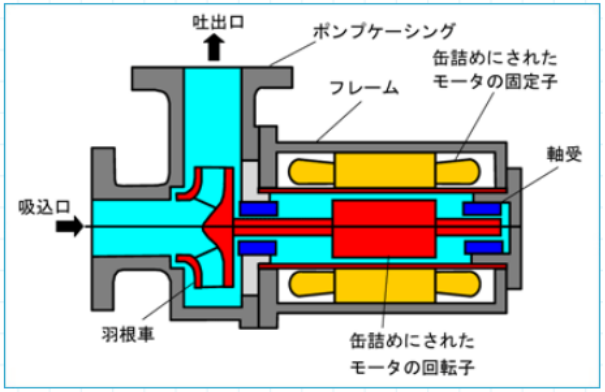
モータを冷却するファンがないので運転音が静かです。

一般的なポンプ



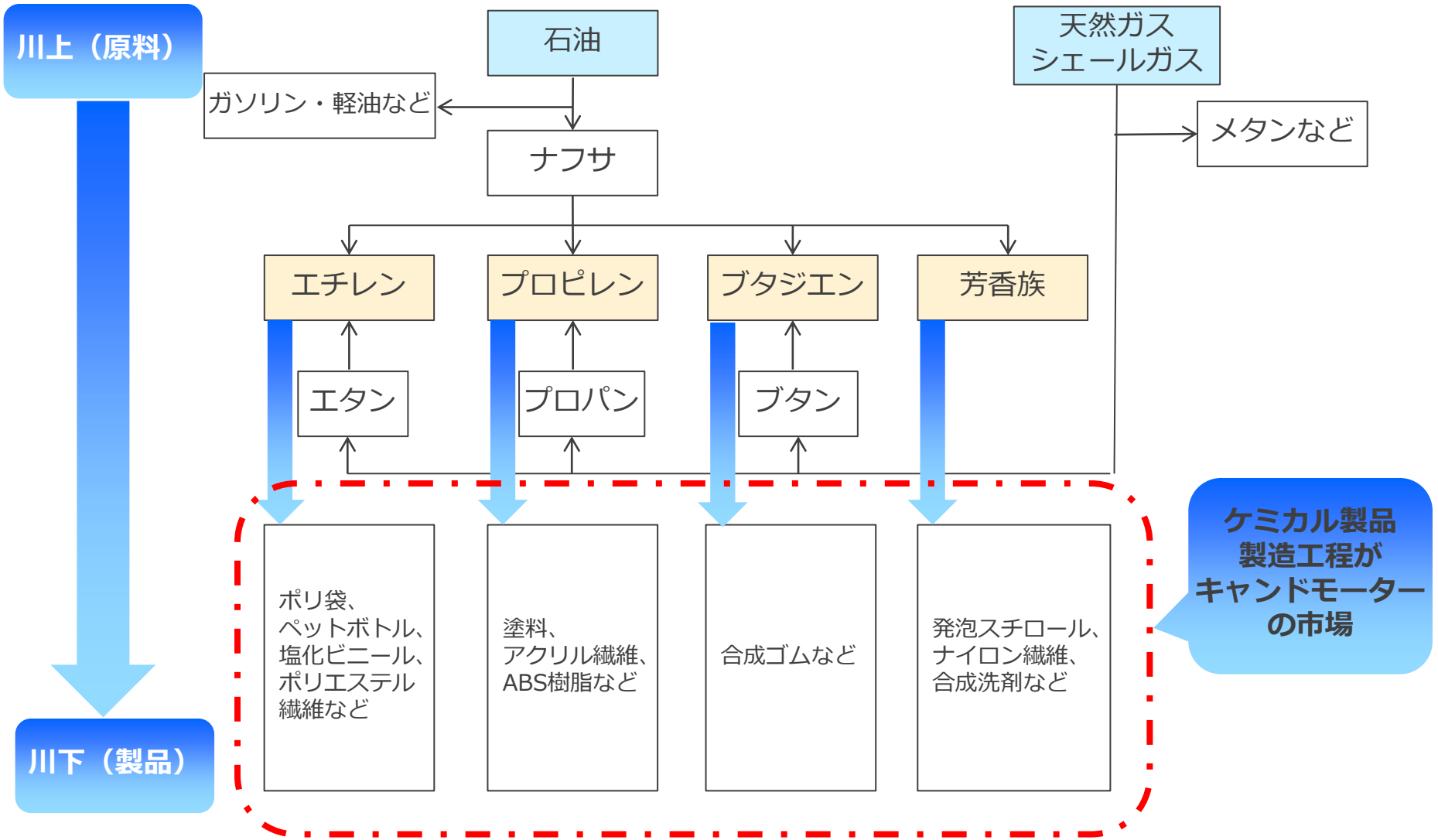
軸シール部から漏洩してしまいます。

キャンドモータポンプ



ポンプとモータを一体化し、密閉された構造であるため漏洩しません。

化学製品の製造工程とターゲット市場



電子部品事業の概要

モータジェネレータ基板

電子部品事業

- 100%子会社平福電機製作所の事業
- 電子部品のプリント基板表面への実装作業中心
  （自動車用・二輪車用85%、産業機械用15%）

主力の車載向けに一層注力　（自動車のシステム化・EV化対応）

- 統合ECU（ワイパーや照明等の機能制御機器）
- EPS（電動パワーステアリングシステム）
- SSU（スマートキーレスエントリー）
- モータジェネレータ（車両用発電電動機）
- EV向けモータの回転センサー

産業機械向けの拡充　（省力化投資拡大による需要増）

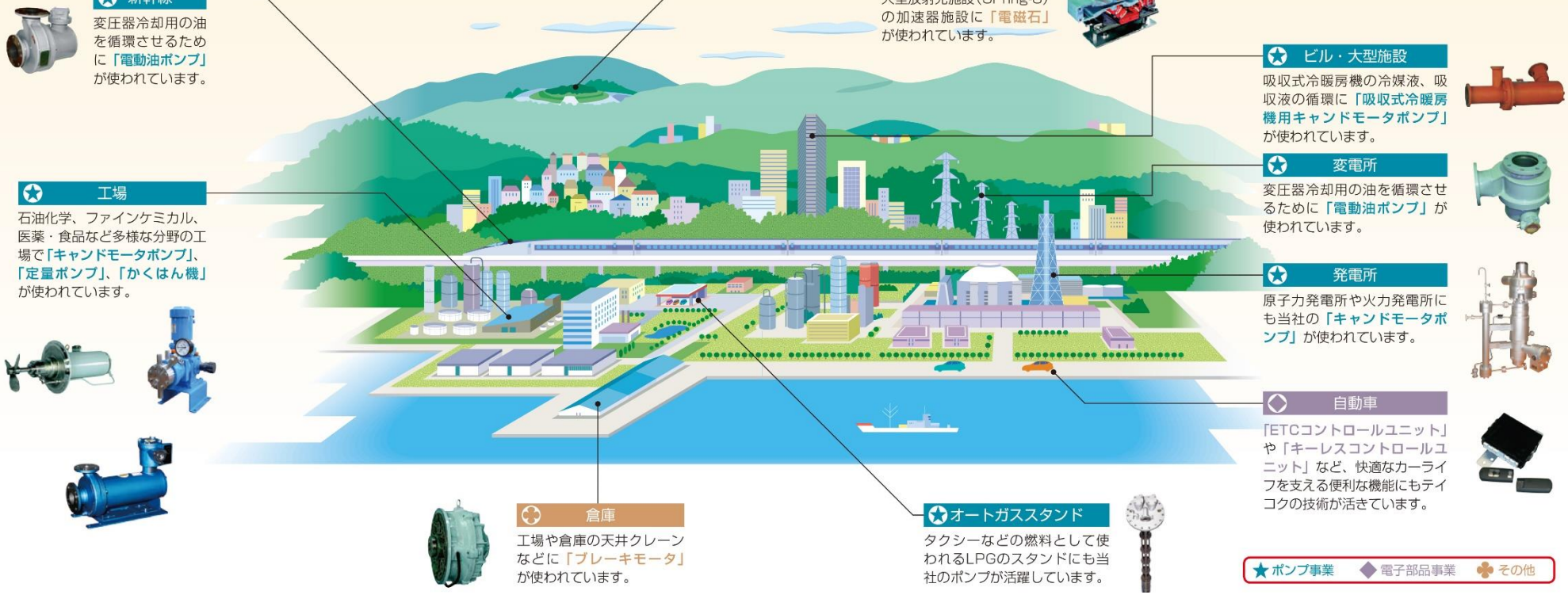
- シーケンサ（PLC）用電源基板・表示器

株式会社 帝国電機製作所

特集

くらしの中のテイコク

当社の製品は、設備や装置の動力部分に使われているため、一般に目に触れる機会はあまりないと思います。しかし、何気なく利用しているビルや交通機関、また、工場、発電所などにも、当社製品は幅広く活躍しており、快適で便利な暮らしや社会をしっかりと支えています。



新幹線

変圧器冷却用の油を循環させるために「電動油ポンプ」が使われています。

大型放射光施設

大型放射光施設（SPring-8）の加速器施設に「電磁石」が使われています。

ビル・大型施設

吸収式冷暖房機の冷媒液、吸収液の循環に「吸収式冷暖房機用キャンドモータポンプ」が使われています。

変電所

変圧器冷却用の油を循環させるために「電動油ポンプ」が使われています。

工場

石油化学、ファインケミカル、医薬・食品など多様な分野の工場で「キャンドモータポンプ」、「定量ポンプ」、「かくはん機」が使われています。

発電所

原子力発電所や火力発電所にも当社の「キャンドモータポンプ」が使われています。

自動車

「ETCコントロールユニット」や「キーレスコントロールユニット」など、快適なカーライフを支える便利な機能にもテイコクの技術が活きています。

倉庫

工場や倉庫の天井クレーンなどに「ブレーキモータ」が使われています。

オートガススタンド

タクシーなどの燃料として使われるLPGのスタンドにも当社のポンプが活躍しています。

★ポンプ事業　◆電子部品事業　✤その他

免責条項

本資料は当社をご理解いただくために作成されたものであり、当社への投資勧誘を目的としたものではありません。
本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保障を与えるものではありません。
また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。
また、業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。
本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。
なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製、または転送等をおこなわれないようにお願い いたします。

株式会社 帝国電機製作所